

## [050]中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4763179>

---

出版情報：中国文学論集. 50, 2021-12-24. The Chinese Literature Association, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：

# 彙報

## 人文科学府

現代文化論C 目加田誠「北平日記」を読む

静永教授

### ○講義題目

\*印は他講座教員との共同オムニバス授業

#### 令和三年度前期(春学期・夏学期)

##### 基幹教育科目

基幹教育セミナー

井口講師

文系デザインプリン科目(文学・言語学入門)

静永教授

##### 司書科目

図書・図書館史 中国の図書・図書館の歴史

井口講師

##### 文学部

講義 唐詩の格律論と切韻音系

静永教授

講義 中国白話文学研究

井口講師

講義 辞賦文学史・春秋戦国から前漢初期まで

(西南学院大学) 栗山雅央講師

演習 唐汝詢唐詩解会読

静永教授

演習 中国白話小説講読

井口講師

演習 中国文学研究法

井口講師・静永教授

中国語(中級) I・中国語初歩 I

(佐賀大学) 中尾友香梨教授

中国語科指導法 II

種村由季子講師

講義 辞賦文学史・春秋戦国から前漢初期まで

(西南学院大学) 栗山雅央講師

演習 文選の研究

静永教授

演習 『列朝詩集』 訳注

井口講師

演習・博士演習 中国文学研究法

井口講師・静永教授

論文指導 中国語学中国文学の諸問題

静永教授

論文指導 中国語学中国文学の諸問題

井口講師

#### 令和三年度後期(秋学期・冬学期)

##### 文学部共通科目

人文学基礎II 唐詩からのおくりもの

静永教授

人文学II 竹取物語「月の顔見るは忌むこと」考

静永教授

##### 教職科目

教職実践演習(国語科)

静永教授

##### 文学部

講義 唐詩の格律論と切韻音系

静永教授

講義 中国白話文学研究

岩崎助教

講義 辞賦文学史・前漢から後漢末まで

(西南学院大学) 栗山雅央講師

演習 唐汝詢唐詩解会読

静永教授

演習 中国白話小説講読

岩崎助教

演習 古典文学作品研読

段 教師

演習 中国文学研究法

岩崎助教・段教師・井口講師・静永教授

中国語(中級)Ⅱ・中国語初歩Ⅱ

(佐賀大学) 中尾友香梨教授

中国語会話Ⅰ・中国語作文Ⅰ

段 教師

中国語会話Ⅱ・中国語作文Ⅱ

段 教師

人文科学府

講義 辞賦文学史…前漢から後漢末まで

(西南学院大学) 栗山雅央講師

演習 文士伝精読

静 永 教授

演習 中国白話小説講読

岩崎助教

演習・博士演習 中国文学研究法

岩崎助教・段教師・井口講師・静永教授

論文指導

中国語学中国文学の諸問題 静 永 教授

論文指導 中国語学中国文学の諸問題

岩崎助教・井口講師

○学位論文

(二〇二一年三月学位取得)

『玄奘三蔵渡天由来縁起』に関する一考察

[学士] 雨宮希望

司馬懿考

[学士] 大園大輔

唐詩朗読考

[学士] 鹿島大吾

宋詩における猫

[学士] 田代舞

『水滸伝』批評における李卓吾思想の反映

[学士] 坪郷孝則

『三才図会』鳥獣部の原典

[学士] 福田華矢

諸葛亮の人物像について

[学士] 藤原惣

曾國藩唱和詩研究

[学士] 汪 洋

司馬相如の文学と「風」——「喩巴蜀檄」を中心として——

[学士] 木村淳美

南曲『元宵鬧傳奇』と『水滸傳』

[学士] 鶴田茜

『封神演義』をめぐる明末士人の出版活動と読書態度

[博士] 岩崎華奈子

(二〇二一年九月学位取得)

陸機史傳體文學研究

[博士] 王 昊聰

○中国文藝座談会

第三二二回(二〇二一年三月六日、オンライン開催)

長屋王のうたげとその詩 久富 茉奈

青年時代の菅原道真 吉野 桜

『三国志演義』における張遼像 尾家 季央

明の統治体制に関わる考察 岡部 和哉

試論法藏三『文選』寫卷的綴合與断代 景 浩

第三一三回(二〇二一年五月二十二日、オンライン開催)

白居易「遊悟真寺」詩の受容から見る清代中期詩壇の一側面

—趙翼・翁方綱を中心に

三言二拍に見える武人

汪 洋  
井 口 千 雪

第三一四回（二〇二二年七月二十四日、オンライン開催）

単士釐の出逢った日仏の女性たち

稲 森 雅 子  
静 永 健

唐詩の微韻について

第三一五回（二〇二二年九月二十五日、オンライン開催）

空海の碑文における中国の宇宙観・地理観の受容について  
（四川大学）ウイリアム・マツダ

唐汝詢とその『唐詩解』

陳 禱 璇

村瀬栲亭と『垂糸海棠詩纂』（明治大学）甲 斐 雄 一

第三一六回（二〇二二年十一月二十七日、オンライン開催）

天理図書館所蔵の『西廂記』孤本について

黄 冬 柏

目加田誠『北京旅行日記（一九三六年）』—中間報告

稲 森 雅 子

○社会連携事業

中国古典文学講演会

（二〇二二年二月十一日、於大野城心のふるさと館）

水をたのしみ、山をたのしみ—中国古典の世界

静 永 健

九州大学附属図書館第四十三回貴重文物講習会

（二〇二二年六月十八日、オンライン開催）

唐・玄宗『紀泰山銘』の原拓資料と銘文の概要

（本学名誉教授）竹 村 則 行  
教員免許状更新講習（新しい時代の古典教育）  
（二〇二二年七月三日、オンライン開催）

第一講 論語はたのしく／第二講 唐詩はゆたかに

静 永 健

特別展「国宝 翰苑の世界」関連古典文学講演会

（二〇二二年十月二十七日、於大野城心のふるさと館）

中国で滅び、日本に残った古抄本三題

—瑠玉集・翰苑・遊仙窟

（本学名誉教授）竹 村 則 行

日本人は本が好き  
（二〇二二年十二月七日、於大野城心のふるさと館）

静 永 健

日本学術会議公開シンポジウム

「戦後アジアの地域再編と学術の共同—分断・協調・再分断  
を超えて—」（二〇二二年十二月四日、オンライン開催）

開戦前夜の日中学術交流 民国北京の大学人と日本人留学生

稲 森 雅 子

○受賞

人文科学府長賞令和二年度優秀賞（三月二十四日）

南曲『元宵鬧傳奇』と『水滸傳』 鶴 田 茜

文学部同窓会奨学会令和三年度優秀研究賞（十月二日）

六朝文人陸機に関する新研究 王 昊 聰

○会員消息(事務局把握分のみ)

景 浩 三月三十一日、九州大学特定プロジェクト教員

(外国人教師)を終えて、西北師範大学に帰任。

稲森 雅子 三月三十一日、九州大学人文科学研究院助教

を満期退職。

岩崎華奈子 十月一日、九州大学人文科学研究院助教に着

任。

段 天妹 十一月十九日、九州大学特定プロジェクト教

員(外国人教師)として、雲南大学より着任。

○会員近著(事務局把握分のみ)

中里見 敬ほか編『演文庫戯単図録 中国芝居番付コレク

ション』(花書院、二〇二二年一月)

愛甲 弘志ほか編『賈島研究』(汲古書院、二〇二二年三月)

東 英寿編『唐宋八大家の探求』(花書院、二〇二二年三月)

中里見 敬編『中国戯単の世界Ⅱ:戯単、劇場と20世紀前半の

東アジア演劇』学術シンポジウム論文集』

(花書院、二〇二二年三月)

稲森 雅子『開戦前夜の日中學術交流:民国北京の大学人と

日本人留学生』(九州大学出版会、二〇二二年四月)

中尾健一郎・中尾友香梨『石井鶴山先生遺稿』

(公益財団法人孔子の里、二〇二二年五月)

竹村 則行『中国文学論纂』(花書院、二〇二二年十一月)

執筆者紹介(掲載順)

中村 昌彦 帝京平成大学現代ライフ学部教授

王 昊聰 九州大学大学院人文科学府博士後期課程修了

景 浩 西北師範大学文學院副教授

静永 健 九州大学大学院人文科学研究院教授

竹村 則行 九州大学名誉教授

ウィリアム・マツダ 四川大学外国語學院日文系副教授

原田 愛 金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授

井口 千雪 九州大学大学院人文科学研究院講師

黄 冬柏 九州共立大学教授

岩崎華奈子 九州大学大学院人文科学研究院助教

陳 禕璇 九州大学大学院人文科学研究院修士課程

鶴田 茜 九州大学大学院人文科学府修士課程修了

汪 洋 九州大学大学院人文科学府博士後期課程

甲斐 雄一 明治大学文学部専任講師

東 英寿 九州大学大学院比較社会文化研究院教授

稲森 雅子 九州大学大学院人文科学研究院専門研究員

## 編集後記

ここに『中国文学論集』の記念すべき第五十号をお届けします。本誌は昭和四十五年（一九七〇）五月に創刊され、以来ほぼ一年に一号のペースで発行を重ねて参りました。前身の『中国文芸座談会ノート』の創刊、昭和二十九年（一九五四）から数えれば、実に六十八年の歴史を有します。本号には十六名の執筆者の皆様が筆をお寄せ下さり、漢代から現代まで、また日本の漢学・漢詩文も含んだ多彩かつ重厚な一冊となりました。心より御礼申し上げます。今回初めて編集に携わることができ、大変光栄であるとともに、重大な責任も感じました。至らぬ点が多く各方面にご迷惑をおかけしましたが、皆様のご指導とご協力のもと、無事に上梓することができました。重ねて御礼申し上げます。

本誌創刊号の編集後記（矢島徹輔先生記）は、「春の風もすぎて学園紛争も漸く平静になり……」という書き出しでした。遑って中国文藝座談会の発足時にも、敗戦後の「一夜にして何もかもひっくり返った世相の大変動」（目加田誠『中国文学論集』の発刊によせて、『中国文学論集』創刊号、一九七〇年）という社会背景がありました。二〇二一年の現在も、新型コロナウイルスの世界的流行による諸々の混乱のみならず、様々な既存の価値観が動揺し、あらゆる方面で急速な変革が進み、まさに「大変動」のただなかにあります。これから社会はいつたいていどうなっていくのか、私たちはどうあるべきなのか、足元がおぼつかなく、不安を覚えることもしばしばですが、先達の、困難な中でも学問に専心し、自らの進むべき道を开拓して来られた姿には、大いに勇気づけられ、また学ぶべきものがあると感じます。

その血脈を継ぐ本誌、来年度は第五十一号の発行を予定しています。少々気が早すぎるかも知れませんが、第一〇〇号に向けて折り返しの第一歩です。会員の皆様の投稿を心よりお待ちしております。

（岩崎 華奈子 記）